

2025年2月20日

慢性疾病児童等地域支援協議会/移行期医療支援体制検討委員会 合同会議

宮城県成人移行支援センターの開設

宮城県成人移行支援センター

宮城県立こども病院 成人移行期支援委員会

リウマチ・感染症科 梅林宏明

宮城県移行期医療支援体制検討委員会

	開催日	内容
第1回	令和4年 3月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・移行期医療支援体制整備事業について ・移行期医療支援に関する医療機関への調査（小児及び成人医療機関）について
第2回	令和4年 6月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・小児及び成人医療機関への実態調査について ・医療的ケア児者の在宅支援に係る診療所アンケート調査
第3回	令和5年 3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・小児医療機関における移行期医療支援の実施状況について ・成人医療機関における移行期医療支援の実施状況について ・重症心身障害児者及び医療的ケア児者における移行期医療支援の実施状況について ・宮城県における支援の方向性について
第4回	令和5年 7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・移行期医療支援センターの業務内容について ・移行期医療支援センターの設置について
第5回	令和6年 2月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県成人移行支援センターの設置について ・医療的ケア児者における移行期医療支援について

委員	
所属	職種
東北大学病院	小児科医
東北大学病院	腎臓内科医
東北大学病院	MSW
宮城県立こども病院	小児科医
宮城県立こども病院	心臓血管外科医
宮城県立こども病院	看護師
宮城県立こども病院	MSW
仙台市立病院	小児科医
在宅診療所	医師
保健所	医師
小慢さぽーとせんたー	小児科医

宮城県内の小児医療機関に対する調査

調査名：小児医療機関における移行期医療支援の実施状況について

実施：宮城県移行期医療支援体制検討委員会

期間：令和4年7月14日から令和4年8月26日まで

対象：宮城県に申請のあった小児慢性特定疾病医療費助成の申請に係る医療意見書を記載している12医療機関（27診療科）

方法：電子メールによる調査

回収率：100%

	東北大学病院	宮城県立こども病院	仙台市内 医療施設	仙台市以外 医療施設
小児慢性特定疾病医療受給者数 + 指定難病受給者数（人）	441+a 【約 20 %】	1,319 【約 55 %】	345 【約 15 %】	228 【約 10 %】
15歳以上の割合（%） (東北大学病院・こども病院は診療科毎)	10~33 %	20~45 %	2~40 %	8~61 %

全国の移行期医療支援センター

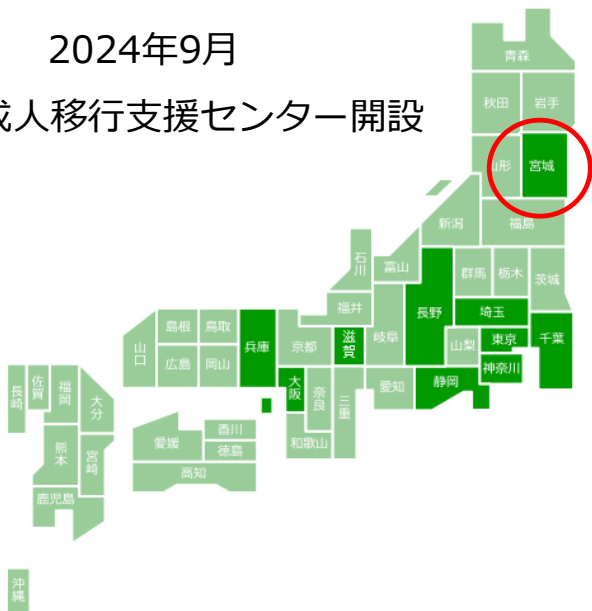
移行期医療支援センターマップ

2025年1月現在 計11箇所

小児期発症慢性疾患をもつ患者のための
移行支援・自立支援情報共有サイト



2024年9月
宮城県成人移行支援センター開設

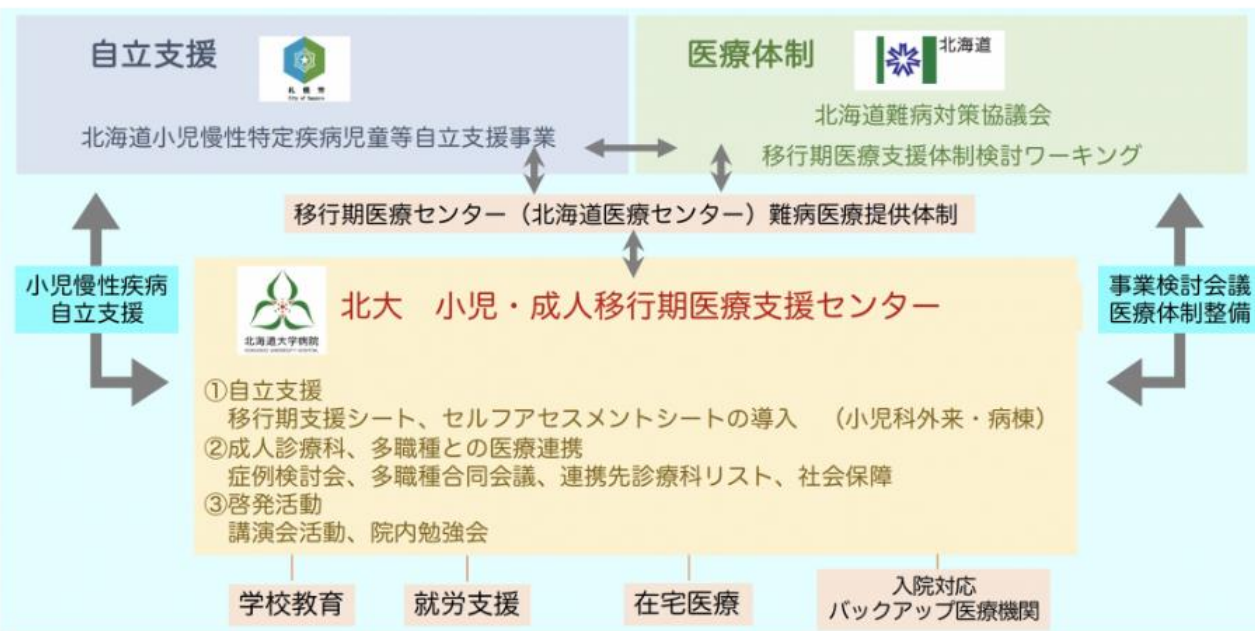


	長野県		北海道	
名称	長野県 移行期医療支援センター	移行期医療 支援センター	小児慢性特定疾病・在宅・ 移行期医療支援センター	北大 小児・成人移行期 医療支援センター
設置 主体	長野県 (委託事業)	長野県立 こども病院	北海道 (委託事業)	北海道大学病院
設置 場所	信州大学医学部附属病院 (長野県松本旭町庁舎)	長野県立 こども病院	国立病院機構 北海道医療センター	北海道大学病院
スタッフ	センター長(小児科医)、 コーディネーター、 事務員	医師、看護師、 など	医師、看護師、など	小児科/成人科医師 看護師 MSW 事務員、 など

自治体の委託事業として予算が付くかどうか

全国の移行期医療支援センター

北大小児・成人移行期医療支援センターの役割図



“成人移行支援”としての活動は、小児慢性疾患を診療する施設ではどこでも必要

[ホーム](#)[外来のご案内](#)[入院・入所のご案内](#)[患者さん・ご家族へ](#)[診療科・部門紹介](#)[交通のご案内](#)[フロアマップ](#)

宮城県成人移行支援センター

[ホーム](#) > [宮城県成人移行支援センター](#)

成人移行支援について

長期にわたる小児診療科への通院の間に、患者さんである子どもたちは成長します。

「なぜ病院に行くのだろうか?」「なぜ検査をしたり薬を飲んだりするのだろうか?」

患者さんに湧き上がる様々な疑問に、医療者や保護者は上手く説明できるでしょうか?

高校生年代の患者さんであっても、自身の病名あるいは治療対象となる病態（体の中で起こっていること）について分からない方もおられます。上記の疑問に対して自分なりに納得する意味でも、まずは自身の病名・病態を知るところから始まります。

今までご家族に見守られ成長してきた子どもたちは、やがて自立（自律）の時を迎えます。自分自身の病気を正しく理解し、向き合い、周りの人たちとコミュニケーションを取りながら病気とともに歩んでいく必要があります。患者さんが成人に至る過程において、心身の成長に合わせて支援を行っていきますが、そのサポートのことを『成人移行支援』と呼びます。

宮城県立こども病院における支援活動については、こちらをご覧ください。

- ・ 成人移行期支援外来
- ・ チーム医療「成人移行期支援チーム」

宮城県成人移行支援センター WEBフォーム（患者・ご家族用）



- WEBフォームでお申込み後、当院より受信通知メールをお送りします（自動送信）。24時間たっても届かない場合にはご連絡ください。
- 迷惑メール対策などでドメイン指定を行っている場合、メールを受信できない場合があります。お申込み前には必ず、メールアドレス『@miyagi-children.or.jp』を受信設定してください。その他、セキュリティソフトでの設定もご確認ください。

記載者ご氏名

例) 山田 太郎

※名字だけでも可

続柄

必須

選択してください



患者年齢

必須

例) 20歳

現住所

必須

選択してください



かかりつけ医療機関名

必須

例) ○○病院

相談内容【選択】

必須

選択してください



問い合わせ内容をご記入ください

相談内容【記述】

必須

メールアドレス

必須

例) sample@sample.com

入力したアドレスに間違いがないかどうかもう一度ご確認ください。

入力内容確認

宮城県成人移行支援センター WEBフォーム（医療機関用）



- WEBフォームでお申込み後、当院より受信通知メールをお送りします（自動送信）。24時間たっても届かない場合にはご連絡ください。
- 迷惑メール対策などでドメイン指定を行っている場合、メールを受信できない場合があります。お申込み前には必ず、メールアドレス『@miyagi-children.or.jp』を受信設定してください。その他、セキュリティソフトでの設定もご確認ください。

記載者ご氏名

必須

例) 山田 太郎

※姓と名の間にスペースを空けてください

医療機関名

必須

例) ○○病院

問い合わせ内容をご記入ください

相談内容【記述】

必須

メールアドレス

必須

例) sample@sample.com

入力したアドレスに間違いがないかどうかもう一度ご確認ください。

入力内容確認

成人移行支援センターの活動


自立支援 ～“個人”ではなく“組織・多職種・多施設”で対応～

- 患者/家族への指導、啓発
- 医療者(小児・成人診療医/メディカルスタッフ)や県内施設への周知
- 相談事業 (電話やセンターHP上のフォーム入力、こども病院受診時の面談)


医療体制の整備 (特に医療的ケア者、重症心身障害者)

- 医療施設情報の把握と整理 (公表も視野に)
- 各医療施設/福祉施設との連携・調整
- 相談事業

*小児診療スタッフから成人診療側へのサポート



地域の状況や診療科 (疾患領域) によって対応は異なる。



成人診療科との連携 (総合病院、クリニック等)

- プライマリ・ケア医 / 在宅医療施設との連携 (医師会との協力)
- 入院先の確保
→ 地域病院内のトランジションチーム(成人診療スタッフ+小児診療スタッフ)

成人移行支援センターにおける相談対応

(2024年9月～2025年1月)

当院以外からセンター宛の相談は少ない

区分	相談対象別件数		
	9~1月		
	院外	院内	計
患者	0	88	88
家族	4	95	99
小児医療機関	0	0	0
成人医療機関	1	9	10
その他	2	10	12
計	7	202	209

(院外：センター宛の電話、メール)

医療的ケア者/重症心身障害者は病院、社会保障に関する項目が多い

	相談内容 (件数)							
	自立	疾患	病院	社会保障	学校	就労	家族	その他
9月	12	1	17	4	0	1	0	0
10月	9	3	19	11	4	2	0	3
11月	22	7	21	11	2	1	0	2
12月	26	6	18	11	0	2	2	2
1月	11	4	12	6	0	0	0	2
計	80	21	87	43	6	6	2	6

(1例で複数件の相談例もあり)

講演・周知活動の一部

院内勉強会 兼 地域医療研修会

患者向け講演会（こども病院 お話シリーズ）

Transition (Feb. 22'24)

宮城県立こども病院 地域医療研修会
成人移行期支援研修会

小児専門医療施設における
成人移行支援への取り組み

窪田 満
国立成育医療研究センター総合診療部 統括部長

宮城県立こども病院 地域医療研修会
成人移行支援研修会

講演 1 宮城県成人移行支援センターの開設
～ 活動内容と今後の展望 ～
宮城県立こども病院 総合診療科部長・リウマチ感染症科科長
宮城県成人移行支援センター長 梅林 宏明 先生

講演 2 病院ノートで「伝える力」をトレーニング
宮城県心臓病の子どもを守る会代表 田下 絵理香 氏

開催日時 2025年3月5日（水）18時00分～19時00分
開催場所 宮城県立こども病院 愛子ホール
開催形式 ハイブリッド形式（ZOOM ウェビナー使用）
参加対象 医師・歯科医師・看護師・すべての医療従事者
参加費 無料
共催 宮城県成人移行支援センター

令和6年度宮城県立こども病院 お話シリーズ第5弾

親なきあとの生活設計

～障害のあるかたの親なきあとに向けて～

日時：令和6年12月13日（金）
14時～15時30分
方法：完全オンライン ZOOM利用

障害のある方のご家族様支援者様向けの研修です
「この子の年金、手当の管理はどうなるのか？」
「手当は貯めておいたほうがよいのかな？」
「親はお金を残したほうがいいのか？」
「医療費や、福祉サービスの利用費が心配」
など大人になっていくと発生するお金の課題を
わかりやすく説明していただきます！

講師
特定非営利活動法人
障がい者の暮らしとお金の相談室
理事長
ファイナンシャル・プランナー（CFP®）
齋藤 真一 様

申し込み方法/お問合せ
宮城県立こども病院 成育支援局
担当：MSW佐藤 伊藤
TEL 022-391-5111
Mail takuto-soudan@miyagi-children.or.jp
事前申し込みが必要です。QRコードからお申し込みをお願いいたします。
当院ホームページにも記載されております。

令和6年度宮城県立こども病院 お話シリーズ第4弾

成人移行期の支援 について

日付：令和6年11月25日（月）
時間：15時スタート 約1時間
方法：完全オンラインZOOM
対象：どなたでもOKです！
参加費無料

今年の9月から、宮城県立こども
病院に宮城県成人移行支援センタ
ーが設置されました。
今回は、重症心身障害や医療的ケ
アのある方の成人移行期の支援に
ついて神経科医師からわかりやす
く説明していただきます！

講師
神経科 医師
遠藤 若葉 先生

宮城県立こども病院 成育支援局
共催：宮城県成人移行支援センター
担当：MSW佐藤 伊藤
TEL 022-391-5111
Mail takuto-soudan@miyagi-children.or.jp
事前申し込みが必要です。
QRコードからお申し込みをお願いいたします。
当院ホームページにも記載されております。

お申し込み
はこちら

自立支援のためのツール

成人移行期支援 Q&A

Q: 同じ病気でも小児科と成人科では違いがあるのでしょうか?
 A: 同じ病気でも小児と成人で治療法が多少異なる場合があります。また、病気の性質や合併する疾患も年齢とともに変化することがあります。さらに、成人期に発症する他の疾患(生活習慣病など)も加わることがあり、成人科で診る病気の比重が増していきます。また、妊娠・出産を希望される際の情報や経験は成人科の方がより豊富にあります。

Q: 成人移行期支援はどの科でも行われているのでしょうか?
 A: 心臓疾患や腎疾患、消化器疾患、リウマチ性疾患、血液疾患、あるいは外科系疾患など、あらゆる分野で行われます。基本的には長期的な経過をたどり思春期・青年期を迎える全ての患者さんが対象となります。

Q: こどもでも治療方針を決めるのに参加しても良いですか?
 A: 小児期医療では治療方針を保護者と医師者が決めることが多いですが、成人科では基本的に患者さん本人と医師者が方針を決めています。今まで保護者が方針決定や薬の管理を行っていたことを、患者さん自身が自主的に参加することが大切になります。成人移行期支援では患者さんが「こども」ではなく「成人の社会人」として成長できるように支援していきます。

病院長からのメッセージ

ここ数十年、医学はめざましい進歩を遂げ、かつての難病が今は治る(あるいはコントロールできる)ことも多くなりました。同時に、患者さんが成長し大人になっても病気や治療の影響をかかずに過ごすことが大きな場面もあります。小児患者が成人移行を必要とする所以です。慣れ親しんだこども病院から成人科施設へ移ることは不安な点もあるかも知れませんが、患者さんと保護者がよく理解し準備して進むことが大事です。病気治療の真の目的は、自らの病気を治すことだけでなく、良い人生を目指すことにあるからです。

これから大人になるあなたへ

成人移行期支援のご案内

■ 成人移行期支援とは
 今までご家族に見守られ成長してきたこどもたちは、やがて自立の時を迎えます。自分自身の病気を正しく理解し、向き合い、周りの人たちとコミュニケーションを取りながら病気とともに歩んでいく必要があります。こどもたちの心身の成長に合わせて支援を行っていきますが、そのサポートのことを「成人移行期支援」と呼んでいます。治療をしながら成人へ至る成長過程で生じる様々な疑問や問題に対して相談に応じていきます。

■ 当院における具体的な取り組み

1. 「成人移行期支援外来」を受診して疾患や薬剤の認識、自己管理項目の把握などを評価し、段階的に成人移行の準備をします。
2. 適切な時期から患者さんと親御さんを別々の診察室でおはなし(診察)をさせていただきます。(診療料にもよります)
3. 自立度や問題点に応じて適切な職種スタッフが相談に応じていきます。

■ 成人移行に向けた年代別の目標

- 準備 (12-15歳)** 成人医療への移行の流れや必要性を理解する。
- 中期 (14-19歳)** 移行の過程であることを認識し、少しずつ自己管理ができるようになる。
- 後期 (16-18歳)** 患者さん自身がケアに関して、かなりの程度で自立する。

■ 成人移行期支援にかかわるスタッフ
 当院の成人移行期支援には医師、看護師だけでなく、薬剤師や医療ソーシャルワーカー、心理士、栄養士など様々な職種がかわり、相談に応じていきます。

宮城県立こども病院
成人移行期支援外来

MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL
宮城県立こども病院
2020年12月作成

年齢に応じたヘルスリテラシー獲得のための目標

*ヘルスリテラシー：自分の身体や病気に関する情報を理解し、自分の健康に関して適切に意思決定をする力

小学校
 自分の上を友達や先生に選べる
 友達との関わりがある
 学校のルールや規範を学ぶ
 学校での役割がある

中学校
 自分の身体について理解し、病気の人に説明できる
 友達との関わりがある
 学校のルールや規範を学ぶ
 学校での役割がある

高等学校
 自分の将来を想像する
 大人と関わる機会を増やす
 病気の理解を深める
 医療・看護・治療などについて考える

進学・就労
 社会の中で自分らしく生きていくために自己責任が求められる
 成人医療をどうするかを考える
 成人医療機関に受診ができる
 自分自身の病気の状況を知る必要がある
 職場での役割がある

生活習慣病・認知に伴う疾患予防・医療費負担などの知識と理解

成人移行期支援は病院になつたらということではなく、小学校高学年くらいから徐々に準備を始めていき、階段を上っていくようなプロセスをたどります。患者さんの成長にあわせて成人移行の準備ができれば良いと考えています。疾患のことや薬のこと、学校や就職、金銭的な面での心配があれば医師や看護師などに伝えたいです。

先輩患者さんからのメッセージ
 (女性、青年性特発性関節炎、3歳発症)
 私は今26歳です。社会人として仕事をしています。こども頃の頃と変わらず、毎月薬を飲んで、薬を飲んで注射して、病気と一緒に生きています。これから大人になるあなたへ。まずは、病気のこと、自分自身のことを知ってください。病気や治療のこと、できること、やらない方がいいこと、いろいろな自分を知ってください。それはこれから、何かを決めるときの選択を助けることにつながると思います。困ったときは、周りの人に聞いてみましょう。先生も看護師さんち、がんばっているあなたと一緒に考えてくれるはずですよ。そして少しずつ、自分で決めてみてください。焦らなくても大丈夫です。ゆっくり、自分のこと、これらのことを考えてみてください。

たくさんの人たちと一緒に、自立に向けて準備していきますよ。

【共通】成人移行チェックリスト(患者用)

記入日 年 月 日
 ID
 氏名

それぞれについて、最もあてはまる欄に○をして下さい	あてはまる	あてはまらな	あてはまらな	あてはまらな
病気・治療に関する知識				
1 自分の病名を知っている				
2 自分の病気がどのような病気なのかを知っている				
3 病気を診断された年、およびその医療機関と担当医師の名前を知っている				
4 入院した時期、入院した理由、入院中の出来事を知っている				
5 どのような治療を受けたか、または受けているかを知っている				
6 疾患と治療に伴う合併症を知っている				
7 現在投与中および過去に投与された薬剤の名称と用量を知っている				
体調不良時の対応				
8 連絡・受診しなければならない症状を知っている				
9 体調不良時の対応(家族や病院への連絡・応急処置等)ができる				
医療者とのコミュニケーション				
10 診察前に質問事項を考えて受診することができる				
11 診察時、医師に質問および自分の意見を伝えることができる				
12 医師・看護師からの質問に答えることができる				
13 困っていることを医師・看護師または薬剤師など他の医療者に話することができる				
診療情報の自己管理				
14 検査結果についてコピーをもらい保管管理できる				
15 診断書や意見書など必要な書類を病院に依頼できる				
自立した受診・セルフケア行動				
16 外来予約の時期を把握し、忘れないための工夫ができる				
17 外来予約の方法を知っている(自分で予約ができる)				
18 定期的な受診し、その結果に基づいてフォローアップを受けることができる				
19 残っている薬を把握し、必要な分を依頼できる				
20 処方箋の期限や、期限が過ぎた時の対応を知っている				
21 病気に関して必要時に協力が得られるように第3者への説明ができる				
22 医療費の助成制度について知っている				
思春期・青年期患者としての健康管理				
23 医師や看護師などと喫煙・飲酒・人間関係などについて話したことがある				
24 医師や看護師などへ妊娠・出産の問題について相談したことがある				
主体的な移行準備				
25 転院・転科に関する情報について主治医と話し合いをしている				
26 成人の病院への移行準備について関心を持ち、自分で情報収集を行うことができる				

自立支援のためのツール

～患者さんが携帯する手帳～

みやぎ
成人移行



◆ 私の成育歴や既往歴

◇生まれた時のことや成長の記録をしましょう

出生都道府県： _____
 出生時のこと： 在胎週数 _____ 週 _____ 日
 出生体重 _____ g 身長 _____ cm
 分娩時の異常： なし・あり (_____)

◇既往歴について記載しましょう

・アレルギー疾患 なし・あり（具体的に下記に記入しましょう）
 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎または花粉症
 食物アレルギー（食物名と症状： _____）
 薬剤アレルギー（薬剤名と症状： _____）
 その他のアレルギー（具体的に： _____）

・原疾患と合併症以外で、これまでに治療したことがある病名について記入しましょう

(病名： _____ 年齢 _____ 歳) 現在の治療： なし・あり
 (病名： _____ 年齢 _____ 歳) 現在の治療： なし・あり
 (病名： _____ 年齢 _____ 歳) 現在の治療： なし・あり
 (病名： _____ 年齢 _____ 歳) 現在の治療： なし・あり
 (病名： _____ 年齢 _____ 歳) 現在の治療： なし・あり

◇月経（生理）について（女性のみ）

・初経日： _____ 年 _____ 月 (_____ 歳の時)
 ・月経周期（18歳時） おおよそ _____ 日 月経不順 なし・あり

◆ 家族歴

◇家族歴

*ご家族の病気の情報はあなたが成人になってからの合併症の診断や予防に役立ちます。わかる範囲で記入してみましょう。

<統柄：祖父・祖母・父・母・兄・妹など>

○悪性腫瘍・・・なし/あり（統柄： _____、病名： _____）

(統柄： _____、病名： _____)

○糖尿病・・・なし/あり（統柄： _____、 _____、 _____）

○高血圧・・・なし/あり（統柄： _____、 _____、 _____）

○循環器疾患・・・なし/あり（統柄： _____、病名： _____）

(統柄： _____、病名： _____)

○精神疾患・・・なし/あり（統柄： _____、 _____、 _____）

○その他の疾患・・・（統柄： _____、病名： _____）

(統柄： _____、病名： _____)

容について記録し、自
 た際に、これまでの診
 す。記載について難し
自身を中心となって、
載してください。
 合のサポートをお願い
 っていくかもしれませ
 に立つことが多いと思
 注意してください。

成人移行支援センターの対外的活動

(2024年9月～2025年3月)

9月9日	大阪府移行期医療支援センター（大阪母子医療センター）と意見交換（WEB会議）
10月29日	東北大学病院の成人移行支援運用ワーキンググループに出席（WEB会議）
11月11日	仙台市外にある訪問看護ステーションスタッフが来院し、成人移行支援に関わる現状や展望について意見交換
11月19日	東北大学病院のメディカルスタッフが来院し、成人移行支援について意見交換
11月25日	患者向け講演会として当院神経科医師が講演（WEB配信「成人移行期の支援について」）
11月27日	県担当者、センター長、こども病院神経科医・外科医、東北大学病院小児外科医が参加するWEB会議（「宮城県における成人移行支援体制の整備に関する意見交換 ～小児慢性特定疾病児童等・重症心身障害児者・医療的ケア児者の成人移行を中心に～」）
12月4日	第13回全国移行期医療支援センター コーディネーター連絡会に参加（WEB会議）
12月10日	仙台市こども若者局こども家庭部こども家庭保健課 担当者が来院し、成人移行支援について意見交換
1月21日	宮城県難病医療連絡協議会に出席（WEB会議）。成人移行支援センターの活動について説明。
2月20日	宮城県移行期医療支援体制検討委員会・慢性疾病児童等地域支援協議会/合同会議にて、成人移行支援センターの活動について説明。
3月5日	成人移行支援研修会（兼 地域医療研修会）を開催予定（「宮城県成人移行支援センターの開設」「患者視点での成人移行支援」）

東北大学病院が行っている、
連携医療機関への施設訪問
(成人患者)

<実施方法>

前月に打ち合わせを行い役割分担を行う。

- ①各施設へのアポ取り、診療科との調整
- ②原義書作成・提出
- ③実施準備（持参資料、必要時PC環境など）
- ④報告シートまとめ、全体へ報告

<確認事項>

- ・各施設の受け入れ状況の確認
(受け入れ時の工夫、ベッドの稼働状況、面会状況、
大学病院への要望など)
- ・例年通りのシートに沿って医療機関の状況確認

訪問月	訪問先医療機関	所属	訪問者職種	移動
6月	A訪問看護リハビリステーション B病院	地域医療連携センター	Ns 2名	タクシー
			MSW 2名	
	C病院 Dナーシングホーム	地域医療連携センター	Ns 2名	タクシー
			MSW 2名	
7月	E病院 F老人ホーム	地域医療連携センター	Ns 2名	タクシー
			MSW 2名	
	G病院 H病院	地域医療連携センター	Ns 2名	公用車
			MSW 2名	
8月	Iホスピス Jクリニック	地域医療連携センター	Ns 2名	タクシー
			MSW 1名	
			救急科	
	Kクリニック L病院	看護部	Ns 1名	
		地域医療連携センター	MSW 1名	
		リウマチ膠原病内科	Dr 1名	
9月	M病院	地域医療連携センター	MSW 1名	
		精神科	Dr 1名	
		地域医療連携センター	MSW 1名	
10月	Pクリニック Q訪問看護ステーション	地域医療連携センター	Ns 2名	公用車
		MSW 1名		
		緩和医療科	Dr 1名	
	R病院 S老人ホーム	地域医療連携センター	Ns 2名	公用車
		MSW 2名		
		地域医療連携センター	Ns 2名	
11月	T病院 Uクリニック	地域医療連携センター	MSW 2名	公用車
			Ns 2名	
	Vホスピス 地域包括支援センター	地域医療連携センター	Ns 2名	タクシー
			MSW 2名	
12月	W在宅診療所	地域医療連携センター	Ns 2名	タクシー
			MSW 1名	
	X病院 Yナーシングホーム	地域医療連携センター	Ns 2名	タクシー
			MSW 2名	

今後の活動

各医療施設、小慢さぽーとせんたー、ちるふぁ、各種関係機関との協力

活動内容	項目	具体的行動
自立支援	患者/家族への指導、啓発	・各医療施設(小児科) / 地域における、 成人移行支援に関する研修・講演 ・WEB研修会の開催
	医療者(小児・成人医療者)や県内施設への周知	
	相談事業 (電話やセンターHP上のフォーム入力、こども病院受診時の面談)	郵送、ホームページ等による広報 (小慢更新時にリーフレット同封?)
医療体制の整備	医療施設情報の把握と整理	・過去の転院先施設のリストを整理 ・各施設における診療可能条件の検討
	各医療施設/福祉施設との連携・調整	・各施設への訪問(事前、外来受診時同伴など) ・小児/成人診療相互のサポート(同一施設内・ 小児施設/成人診療クリニック、など)

その他：就労支援（ハローワーク、宮城障害者職業能力開発校などとの協力）